

「超訳」という可能性

—大学における小倉百人一首の授業より—

加古 有子

1、はじめに

至学館大学健康科学部こども健康・教育学科では、所定の単位を修得し卒業する学生にこども学の学位を授与する。資格や免許の取得は卒業要件ではないが、多くの学生が、保育士資格や教諭（幼稚園、小学校、中学校保健体育）免許の取得を目標としている。

そのような学科の4年次後期に、現在「こどもと言語Ⅱ（文化としての日本語）」^{〔注1〕}という演習科目が配置されている。この科目は、学科の専門教育科目のひとつで、保育士資格を取得するためには必ず取らなければならないが、保育士資格の要らない学生も取ることができる。そのため、保育士に特化した内容ではなく、どちらかと言えば、一般教養的な内容が求められる。

筆者は、「こどもと言語Ⅱ（文化としての日本語）」の担当教員として、日本文化とともに日本語の特徴やおもしろさを体験的に学べる授業を模索してきた。しかし、進路もおおかた定まった時期に、保育士や教諭としての実践的技術を身に付ける授業ならまだしも、一般教養的な授業を特別な興味や関心を持って受ける学生はほとんどいない。保育士資格を取得するため、あるいは、卒業単位を満たすために、仕方なく授業を受ける学生が多いというのが実情である。

そのような状況で、人気コミック『超訳百人一首 うた恋い。』（以下『うた恋い。』）^{〔注2〕}を知る。このコミックは、「百人一首の世界を、より親しみやすい『超訳』として紹介すること、多くの読者の共感を呼んで」^{〔注3〕}おり、公式サイトによれば、第4巻までのシリーズで累計87万部を突破したという^{〔注4〕}。また、競技かるたをテーマにしたコミック『ち

はやふる」〔注5〕も映画化され、平成28年の春、「上の句」「下の句」の二部作が連続で劇場公開された。「今まさに百人一首はブームの時を迎えて」〔注6〕いるという。

百人一首を題材にしたコミックが人気を博しているなら、そのコミックを利用し、主体的に学べる授業を構築できるのではないか。平成27年度後期に、「超訳」を百人一首の解釈に利用するだけではなく、学生が「超訳」そのものに挑戦する授業を実践した。その成果を報告し、「超訳」の可能性を提示したい。

2、「超訳」の定義

広辞苑、明鏡、新明解の国語辞典に「超訳」という見出し語はない。国語辞典の世界では、「超訳」は、一般的な言葉として認知されていないようである。しかし、今日の「超訳」の氾濫を見れば、国語辞典に収用される日も近いと思われる。ブリタニカ国際大百科事典は「超訳」を以下のように説明している。

アメリカのベストセラー作家シドニイ・シエルダンのミステリー『ゲームの達人』『真夜中は別の顔』などの翻訳の方法。(中略) このシリーズの成功はひとえにこの超訳にあるとして、この語自体が登録商標化されている。なお、『ゲームの達人』などの超訳シリーズを出版し、「超

訳」を商標として登録しているのは、英語学習教材などを手掛けているアカデミー出版である。アカデミー出版のホームページには、以下のような「超訳」に関する記述が見られる。

「超訳」は、自然な日本語を目指して進める新しい考えの翻訳で、(中略) 日本語本来の語感を見失わないことを絶対条件にした翻訳のことです。(中略)

「超訳」では、原文の面白さを充分に引き出すために、作者から同意を得た上で、いたずらに英語の構文にとらわれることがないよう、自由な裁量で日本語の文章を書き上げています。

「意訳」との違いは何か。「意訳」は「原文の一字一句にこだわらず、全体の意味をくみ取って翻訳すること。」(明鏡国語辞典)とある。

新刊書籍情報を配信するウェブサイト「新刊JP」のコンテンツ「新刊JPニュース」がアカデミー出版に「超訳」の意味を尋ねた記事〔注7〕がある。それによれば、「超訳とは」意訳をより洗練したもの『です』という返答があったという。

英語の文法や構文よりも日本語としての理解しやすさを尊重するという意味では、「超訳」と「意訳」は重なり合う部分がある。しかし、「意訳」は、「わかりやすさ」を重視し、細かなニュアンスには目をつぶってざっくりと全体をとらえることを指すと思われる。それに比べ、「超訳」は、「わかりやすさ」だけではなく、洗練された滑らかさが必要であると

いう。アカデミー出版の主張は、文学的にも魅力的で面白いことが「超訳」にとっては重要だということなのだろう。

3、「超訳」の広がり

インターネット小売業者Amazon.comの本カテゴリーで「超訳」を検索したところ、平成28年4月16日時点で597件がヒットした。そのなかには、タイトルに「超訳」という言葉がつかないものも多く見られる。「超訳」と銘打たなくとも「超訳」本に組み込まれているものが多いということである。「超訳」自体が一つのジャンルとして確立されている証左であろう。また、出版が古い順に並べ替えたところ、最も古いものは、共生出版から昭和37年10月1日に刊行された『スミルノフ高等数学教程12・V巻「第二分冊」』^{〔注8〕}であった。「超訳」ジャンルに入れられている本のなかには、外国作品を翻訳しているものだけではなく、『うた恋い』のように古文を若者言葉も交えた現代口語に訳したものもある。また、非常に多いのは、哲学書や六法全書などの学術書や専門書、いわゆる難解なものを分かりやすく解説したものである。

「超訳」は外国語を日本語に翻訳する時のひとつの方法というだけではなく、より平易にわかりやすく言いかえるという意味でも使われるようになっていく。

まず、アカデミー出版の「超訳」シリーズが話題を集めたこ

とで、出版業界に二匹目の泥鰌を狙う動きのあったことが想像できる。その次に、「超訳」という言葉自体が非常にキャッチであったことから、「わかりやすさ」を謳う場合などに、タイトルに「超訳」をつけるようになったのだろう。さらに、「わかりやすさ」が特徴のひとつなら、タイトルに「超訳」が無くとも「超訳」ジャンルに取められるようになったのではないか。現在は、「超訳」が独り歩きし、「超訳」ものの氾濫という状況を呈している。なお、「超訳」を商標として登録しているアカデミー出版に「超訳」という言葉がいたるところで使われていることに関して尋ねたところ、次のような回答を得た^{〔注9〕}。

ご指摘の通り、「超訳」は様々なところで使われており、メディアなどでも許可なしに使われていることも承知しております。

しかし直接ビジネスとして結びつかないのであれば良しとのスタンスであります。

アカデミー出版のおおらかな受け止め方も、「超訳」が広く使われる理由の一つであろう。

4、授業の方法

保育・初等教育コースの学生31名（途中から30名）が受講するクラスと、初等・中等教育コースの学生14名が受講するクラスの2クラスで授業を実施した。

(1) 第1回目の授業

- ①「うた恋い。」第1巻の「はじめに」と「百人一首事始」を読み、小倉百人一首の選者が藤原定家であることや編纂の背景を学ぶ。
- ②同第1巻の「和歌物語三 藤原義孝&源保光の娘」を読む。
- ③「後朝の文」「夫の通い婚」について知る。

「和歌物語三」は、小倉百人一首の第50首で藤原義孝の和歌「君がためをしからざりし命さへながくもがなと思ひけるかな」の背景エピソードを漫画で表現したものである。エピソードの末尾には、作者・杉田圭による「超訳」・「いつ死んでもいいと思っていた君に会うまでは君に会えた今いつまでも君といわれたらとほくは願っている」が添えられている。情熱的な内容に、学生からは、驚いたり感嘆したりする声が上がった。

「後朝の文」については、「あなたたちが、デートの後で、『素敵な時間をありがとう』とメールするのと同じ。」と解説すると、共感する意見が多数聞かれた。次週から毎回10首ずつの「超訳」に挑戦することを伝え、意欲的な反応が返ってきた。

(2) 第2回目～13回目の授業

- ①くじ引きによって、3～5名程度の4グループまたは6グループに分かれる。半分のグループが前半5首、残りのグループが後半の5首の「超訳」を考える。
- ②前半グループが5首の「超訳」を板書し、順に発表する。後半グループが、それぞれの歌の最も優れた「超訳」を挙手投票によって決める。
- ③②の前半と後半が入れ替わる。

第3回目からは、授業のはじめに、前週に取り上げた10首上の句と下の句を結びつける小テストを実施した。50首を終えたところでは、第1首～第50首までを範囲としたテストを実施し、さまざまなかた遊びや決まり字について学ぶ回を設けた。13回目の授業では、第51首～第100首までを範囲としたテストを実施後、小倉百人一首とは無関係の内容(物語の要約)を取り上げた。

(3) 第14回目の授業

- ①くじ引きで6～8名の2～4グループに分かれ、グループ毎に車座に座り、輪の内に字札(取り札)をバラバラに散らすように置く。
- ②授業者が絵札(読み札)を読むのを聞き、それぞれのグループが字札(取り札)を取る「散らし取り」を楽しむ。

くじ引きでグループメンバーを入れ替え、第2回戦まで実施し、取った札の一番多い学生を、そのクラスの優勝者とした。どの学生も夢中になり楽しんでいるように見えた。

(4) 第15回目の授業

① 小倉百人一首に関するアンケートに答える。

② 授業内容の振り返りをする。

③ 第1首～100首を範囲とした期末テストを受ける。

テストは、第一問～第四問の設問群があり、それぞれが10首の上の句と下の句を結ぶものである。最も正解数の多い設問群を評価の対象とする。

5、授業の様子と「超訳」の例

学生たちが「超訳」に取り組む時に参考にするのは、『原色小倉百人一首』^{〔注10〕}と杉田圭による超訳^{〔注11〕}である。割り当てられた5首を全員で訳すグループもあれば、担当の歌を決めて訳すグループもあった。

「超訳」の前に、授業者が文法や語句に関する解説をすることはなかったが、学生の声を拾って説明することはあった。

【例1】

学生…「もがな」って、前にも出てきたな…。
教員…「もがな」というのは、願望を表します。「」であ
ればなあ」という感じかな。

【例2】

学生…「沖つ白波」って変な言い方。「つ」って？
教員…この「つ」は「の」と同じで「沖の白波」という
こと。12番目の歌にも「天つ風」という言葉がありました。
現在も同じような「つ」が使われています。「まつ毛」は
「目つ毛」（板書）という意味、つまり「目の毛」という
ことです。

【例3】

学生…「ちはやぶる」って漫画にもあるけど、結局どうい
う意味？
教員…「ちはやぶる」は「枕詞」のひとつで、「枕詞」そ
のものにはほとんど意味がありません。決まった言葉に
つなげて調子を整えたりイメージを呼び起こしたりする
決まり文句みたいなもので、「ちはやぶる」とくれば神様
の「神」につながります。また、…（以下、さまざま
な例を提示）。

以上のように、ときどき解説を受けながら、学生たちが挑戦した「超訳」の例を示す。比較のため、『原色百人一首』による歌意（歌意）と杉田圭による「超訳」（杉田）も記す。

〔5〕奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の

声きく時ぞ 秋は悲しき

（超訳）鹿鳴いとんの悲しそうや。こつちも悲しなるわ。秋ってせつないな。

（歌意）人里離れた奥山で、散り敷いた紅葉を踏み分けて鳴いている鹿の声を聞く時こそ、いよいよ秋は悲しいものと感じられる。

（杉田）山奥で鹿が鳴いているもの悲しい声がここまで響いてくるやっぱり秋ってなんかせつない

〔6〕かささぎの 渡せる橋に おく霜の

白きをみれば 夜ぞふけにける

（超訳）橋なう。霜キター。お前いつ来んの？

もう夜！ さみい

（歌意）かささぎが翼をつらねて渡したという橋——宮中の御階におりている霜が白いのを見ると、もう夜もふけてしまったのだった。

（杉田）橋に真っ白な霜がおりている あなたを待つうちに夜がすっかり更けてしまったみたいだ

〔9〕花の色は うつりにけりな いたづらに

わが身世にふる ながめせしみに

（超訳）きれいい瞬 ばばあ一生

（歌意）桜の花はむなしく色あせてしまった。春の長雨が降っていた間に。——私の容姿もすっかり衰えてしまった。生きていることのもの思いをしていた間に。

（杉田）きれいな花も咲いたままではいられない。ぐるぐる思い悩んでいたら 私もあつという間におばさんになっちゃった

〔14〕陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに

乱れそめにし われならなくに

（超訳）君がかわいすぎるせいで心臓バクバクだよー。

（歌意）陸奥のしのぶもじずりの乱れ模様のように、ほかの誰のせいで乱れはじめてしまったのか、私のせいではないのに……。ほかならぬあなたのせいなのですよ。

（杉田）私の心がこんなに乱れているのは 誰のせいだと思う？ ぜんぶ君のせいだ

〔67〕春の夜の 夢ばかりなる 手枕に

かひなく立たむ 名こそ惜しけれ

（超訳）あなたみたいなチャラ男はお断り。誤解されたくないから。

(歌意) 短い春の夜の夢ほどの、はかないたわむれの手枕のために、何のかいもない浮名が立ったとしたら、なんとも口惜しいことです。

(杉田) 春の夜だからって 浮かれたあなたの気まぐれに付き合うのはお断りつまらない噂が立つだけだもの

69 風吹く 三室の山の もみぢ葉は

竜田の川の 錦なりけり

(超訳) 能因法師の定理(風×もみぢ) + 川 = 鮮やかな織物(歌意) 嵐の吹きおろす三室の山のもみぢ葉は、竜田の川の錦なのだった。

(杉田) 嵐でもみぢの葉がたくさん落ちて 川の水面を埋めつくすまるであでやかな錦の織物のようだ

学生たちの「超訳」の特徴は、方言や若者言葉などの日常的に使う言葉を取り入れることである。特に、簡潔に上手く訳せたときに、より達成感が得られるようであった。また、友人たちからの共感を得るため、声色を使う、間や抑揚を工夫するなど、発表時の表現方法にも凝るようになっていった。

6、百人一首に関するアンケート調査の結果と考察

第15回目の授業で実施したアンケートの結果についてまとめる。調査日は平成28年1月22日、回答者は43名である。な

お、本論で考察の対象にしなかった項目を省略し、質問内容も一部簡略化した。

(1) 小倉百人一首との関わりについて

1、保育園・幼稚園で小倉百人一首に触れる機会がありましたか。

① ある(↓設問2) : 0 ② ない(↓設問3) : 37

③ 覚えていない(↓設問3) : 6

2、(省略)

3、小学校で小倉百人一首に触れる機会がありましたか。

① ある(↓設問4) : 21 ② ない(↓設問5) : 16

③ 覚えていない(↓設問5) : 6

4、小学校での小倉百人一首との触れ合いは、勉強・学習の一環という感覚でしたか。遊びという感覚でしたか。

① 勉強・学習 : 8 ② 遊び : 14

③ 覚えていない : 0 ④ その他 : 0

5、中学校で小倉百人一首に触れる機会がありましたか。

① ある(↓設問6) : 17 ② ない(↓設問7) : 17

③ 覚えていない(↓設問7) : 9

6、中学校での小倉百人一首との触れ合いは、勉強・学習の一環という感覚でしたか。遊びという感覚でしたか。

① 勉強・学習 : 17 ② 遊び : 0

③ 覚えていない : 0 ④ その他 : 0

7、高校で小倉百人一首に触れる機会がありましたか。

- ① ある（↓設問8）…11 ② ない（↓設問9）…30
 ③ 覚えていない（↓設問9）…2
 8、高校での小倉百人一首との触れ合いは、勉強・学習の一環という感覚でしたか。遊びという感覚でしたか。

- ① 勉強・学習…10 ② 遊び…3
 ③ 覚えていない…0 ④ その他…0

9、家庭で小倉百人一首と触れ合った経験はありますか。

- ① ある（↓設問10）…16 ② ない…24

- ③ 覚えていない…3

10、いつ頃のどのような経験ですか。

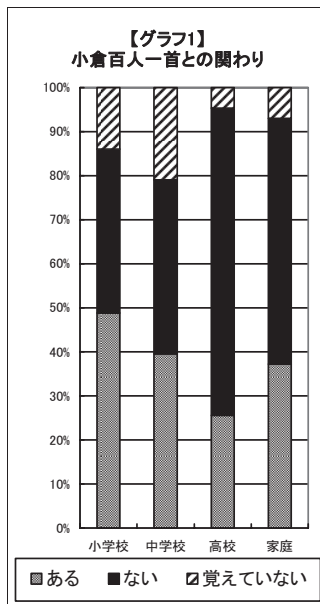
（キーワードとして）

小学生の頃…7、幼い頃（小さい頃、保育園の頃）…5、
 現在…1、正月…4、祖母の家…3、
 家族（母、兄、妹）と…4、親戚（祖父たち）と…2、
 一緒に覚えるため（妹の勉強を手伝うため）…2、
 授業でやったので家でも…1、坊主めぐり…6、
 百人一首大会…2、かるた…1、クリスマスプレゼント…1

《考察》

古典を習う機会が増えるほど、百人一首に触れる機会が増えると思っていたが、【グラフ1】でわかるように、結果はその反対であった。小学生時代に家庭や学校で遊びの一環として百人一首に親しんだ学生は半数ほどいたが、中学校、

高校へと進むにつれ、百人一首に触れる機会が少なくなっている。遊びの一環として触れた記憶は強く残っても、勉強や学習の一環で触れた百人一首には興味が持てず、記憶に残っていないという可能性もあるのではないか。



（2）大学で授業を受ける以前の、小倉百人一首に対する印象について

1、難易度

- ① 非常に難しい…13 ② 難しい…23
 ③ どちらでもない…6 ④ 簡単…1
 ⑤ 非常に簡単…0
 2、関心度
 ① 非常に関心がある…1 ② 関心がある…13

③ どちらでもない…14

④ あまり関心がない…10

⑤ 全く関心がない…5

3、親しみやすさ

① 非常に親しみやすい…1

② 親しみやすい…11

③ どちらでもない…12

④ 親しみにくい…15

⑤ 非常に親しみにくい…4

4、学ぶ重要性

① 非常に重要である…0

② 重要である…12

③ どちらでもない…19

④ あまり重要ではない…11

⑤ 全く重要ではない…1

5、高校までに学んできた経験を踏まえ、小倉百人一首に限らず、古典や古典文学としての和歌に対する印象を自由に書いてください。(学生の書いたものは、誤字なども含め、そのまま表記。以下同様。)

【プラスイメージ…9】

・昔の人はやさしい言葉で気持ちを伝えててロマンチックやと思った。・すごく愛が深い。色んな意味で。

・昔の人が様々な事物に対して抱く思いを見、その感受性に感動を覚えていた。・豊かな表現を学ぶことができる。

・和歌は昔の写真みたいで、言葉で表現しているのだと思いました。・一つの句で、意味、内容が深い。

・句法を覚えるとすいすい覚えられる。恋愛ものが多いから親しみやすい。

・掛詞や倒置法など言葉の工夫がすごくされていて面白い。

・今現在の言葉とは少し異なるが、日本の古くからの文化であるため好き。

【プラスとマイナス…6】

・そのままだとよくわからないが、意味を知るとちよつともしろうい。・難しいが分かったら楽しそうだと思った。

・今と言語が違いすぎて読み取るのに時間がかかりめんどくさい。だが現代語訳はみて面白かった。

・口語訳をしてみると思った訳と違って面白かったが、正しい訳ができるようになるまで時間がかかった。

・短い文の中にストーリーが描かれていておもしろいと思うが、知らない言葉が使われていると読みたくなる。

・古典は苦手だったので難しいイメージだった。百人一首を通して古典に親しみをもつて学べた。和歌には興味なかったため印象はあまりない。

【プラスでもマイナスでもない…4】

・感じたことをうたうもの。知ってるうたは知っている。

・あまり覚えていない。・古典まったく印象ない。

・好きな子は好きだなという感じ。

【マイナスイメージ…21】

・英語を習う感覚で学んでいた。単語など覚えないうちと少しも理解できなかった印象がある。・難しい言葉を使いすぎ。

・恋の歌が多い。意味がわかりづらい。・よみづらい。

- ・ ほぼ恋を語ったものだという印象。難しくてなじみのないもの。
- ・ 難しい言葉が使っているため苦手意識があった。
- ・ 難しそう。 ・ 難しい。 ・ 難しい。 ・ 難しい！
- ・ 難しい。何を言いたいかわからずでわかりにくい。
- ・ 現代とは違う言葉であり文の意味がわからないイメージ。
- ・ 古典は難しく読めない印象。 ・ 好きじゃない。
- ・ すごく難しい、理解できない、意味がみつからない（訳せない）
- ・ 覚えにくい。する意味がわからない。
- ・ 日本語が難しい、「え」など難しい字が多いという印象、
- ・ 高校の時ノートに書きづらかった。
- ・ 今の言葉とちがったので苦手だった。
- ・ 昔の言葉で難しいと感じていた。古典、漢文等は苦手だった。
- ・ 今と使っている言葉？が違って読みにくい。
- ・ やらなくてもいいならやりたくないもの。

(3) 大学で授業を受けた後（現在）の、小倉百人一首に 対する印象について

1、難易度

- ① 非常に難しい…4
 - ② 難しい…20
 - ③ どちらでもない…15
 - ④ 簡単…4
 - ⑤ 非常に簡単…0
- #### 2、関心度
- ① 非常に関心がある…6
 - ② 関心がある…27

- ③ どちらでもない…8
 - ④ あまり関心がない…2
 - ⑤ 全く関心がない…0
- #### 3、親しみやすさ

- ① 非常に親しみやすい…8
 - ② 親しみやすい…22
 - ③ どちらでもない…9
 - ④ 親しみにくい…3
 - ⑤ 非常に親しみにくい…1
- #### 4、学ぶ重要性

- ① 非常に重要である…2
- ② 重要である…19
- ③ どちらでもない…20
- ④ あまり重要ではない…2
- ⑤ 全く重要ではない…0

5、(2) の5で書いた印象は、大学での授業を受けて変化しましたか。変化した場合、その内容を書いてください。

【よりプラス（マイナスからプラス）へ…23】

- ・ 現代っぽい意味になるとより面白い。
- ・ より好きになりました。 ・ 百人一首の面白さを知れた。
- ・ 和訳の内容が恋愛系のものばかりで、共感できるような歌もあった。もっと固い内容だと思っていた。
- ・ とても面白いものでした。特に恋の歌がすごいものだった
- り、つらいものだったりした。
- ・ 和歌を実際に訳すことで、親しみやすく意味も面白く感じた。
- ・ 百人一首は覚えやすかったので、好きになった。
- ・ 恋愛が多くとても内容が濃かった。
- ・ より深まった。 ・ より深まった。

・変化した！昔の人はストリートに思いを伝えないので、訳
 していて楽しかった。

・意味がわかればおもしろい！ ・意味を知ると面白い。

・意味が分かると内容がおもしろい。

・変化した。日本独自の文化で、ちゃんと読み解いていくと
 面白い。

・変化した。親しみを感じた。

・意味を知ったりするとその時代の背景がわかったりして面
 白と思った。 ・昔からしつかり感んでおきたくなった。

・やってみると意外とおもしろい！！

・訳が書いてあるテキストが手本にあると自分で考える（イ
 メージする）ことができて面白かった。

・百人一首でつかわれている文章は難しく、何を言っているか
 分からなかったが、思いの外恋愛のうたが多く、面白く感じた。

・百人一首の文だけを見ていると難しいけど、訳が隣に書い
 てあって、それを見たり、自分で考えたと少しは関心が
 持てるようになるし、親しみも持てると思った。

・知識がないと読めないという点については変わりないが、
 うた、特に百人一首にあるようなものは、人の心情や景
 色についてが多く、人間味があって面白いと感じた。

【変わらないところとプラスになったところ…1】

・変わらず、恋を語ったものが多いなという印象。覚えたり
 百人一首大会をしてみると意外と楽しいものだという印象。

【変化なし…5】

・印象の変化はなかった。 ・変化はなし。 ・特になし
 ・変化なし。 ・同様に読みづらい。

【プラスマイナスではない変化…2】

・昔の人は、恋の悩みをたくさん抱えていて、ストレス発散
 の場が無いということが伝わってきた。

・今も昔も人が考えることはそんなに変わらないんだと思った。

【プラスの変化もあるが変わらないマイナス面も…2】

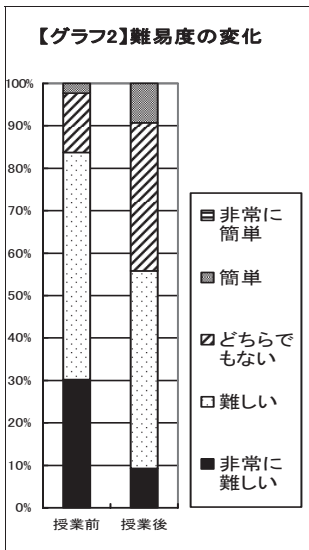
・超訳となれば楽しい。けど古典自体は苦手。

・やってみると意外と面白いと感じたが、難しいということ
 に関しては変わらない。

【よりマイナスへ…2】

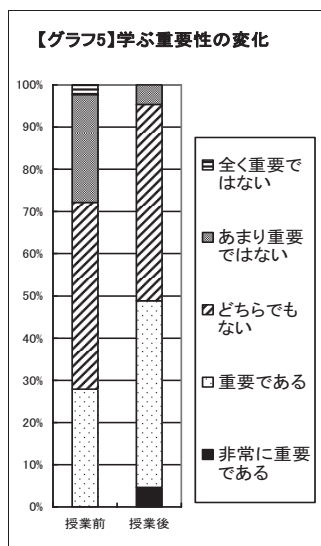
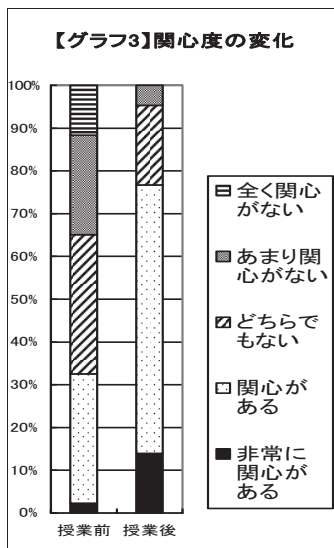
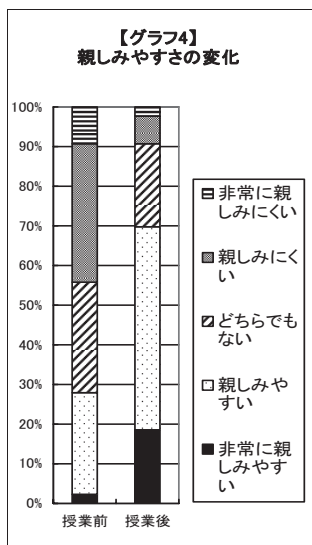
・百人一首やってみるとよけいに難しかった。濁点とか。

・昔の言葉は難しい。



「超訳」に取り組むことによって、学生たちは、自分たちの言葉や感覚で百人一首を解釈するようになったと思われる。

《考察》



つまり、【グラフ2】でわかるように、百人一首を理解しやすくなったのである。その結果、【グラフ3】【グラフ4】が示すように、学生の百人一首に対する関心が高まり、親しみやすさも増すこととなった。さらに、【グラフ5】からは、百人一首を学ぶ重要性にも気づくようになったことが読み取れる。

「超訳」を取り入れた授業は、学習者の意欲・関心を高め、理解度を深めるといって、大きな成果を上げたと言える。

(4) 「超訳」について

1、「超訳」という言葉の意味を知っていましたか。

① 授業を受ける前から知っていた：2

② 授業を受ける前から言葉は聞いたことがあったが、意

味は知らなかった（授業を受け意味がわかった）：11

③ 授業を受ける前から言葉は聞いたことがあったが、授業を受けた今でも意味はわからない。：1

④ 授業を受ける前は聞いたことがなかったが、授業を受けて意味がわかった。：24

⑤ 授業を受ける前は聞いたことがなく、授業を受けた今でも意味はわからない。：3

2、お手本（漫画『うた恋い』掲載）の「超訳」を読んだ印象について書いてください。

・わかりやすい。 ・わかりやすい。 ・わかりやすかった。 ・分かりやすかった。 ・マンガはわかりやすくて。

・現代の言葉遣いで理解しやすい。 ・親近感があった。 ・百人一首のうたの一つとは思えない親しみやすい内容だった。

・非常に理解しやすくなっている。 ・親しみを持つことができるという点で、面白いと思った。

・堅苦しくなくてわかりやすい。 ・親しみやすくおもしろかった。 ・面白くてなじみやすい。 ・おもしろい。わかりやすく、親しみやすい。

・現代の言葉にするとロマンチックになったりと、とても興味深く親しみが出了た。 ・面白い。想像以上に超訳。

・面白かった。 ・面白い。 ・面白い。 ・面白かった。 ・面白い。 ・面白かった。

・面白く分かりやすい。 ・面白かった、分かりやすかった。

・面白いからもとと買っていた。読みやすい。

・面白い、分かりやすい。 ・面白くて、わかりやすかった。 ・面白いし、今風でわかりやすいと思った。

・現代の若者がイメーシしやすい内容で、とても面白かった。 ・ちゃんとうたの意図をくんで訳されていておもしろかった。

・今風の訳は頭の中に入りやすくて面白い。 ・今風だと思った。 ・今風に直されていて面白かった。

・現代語にすると面白いと思った。 ・かなり自由だった。 けっこう自由に訳をつけているなと感じた。 ・ロマンチストだなと思った。 ・恋愛物語。

・なるほど！と思った。恋のものが特に！ ・ひとつひとつにストーリーがあると面白くて他のも知りたい。

・こんな訳で良いのかー！と思った。 ・短い文章の中でも、思ったことは多くあるのをまとめているということがよく分かった。

・恋っていいものだなとつくづく感じた。 3、小倉百人一首の「超訳」に挑戦してみていかがでしたか。感想を書いてください。

【難しかった：15】

・自分の中の語彙が乏しいからうまく表現できなかった。 ・意外に難しかった。 なかなか難しい。 ・難しかった。

・難しかった。 ・難しかった。 ・自分で考えてみると難しい。

・昔の人の心情や情景を考えて理解する難しさ。

・どこまで伝えるかが難しかった。

・現代風に訳して人に伝えるのは難しいと思った。

・句の意味を理解し、自分なりに考えるのは難しかった。

・その時を想像しながら書くので、難しかった。

・歌のイメージを崩さず、しかし自分なりに分かりやすくすることは難しかった。・苦手だった。

・面白い意見もあり原文よりわかりやすかったが、あんまり覚えられなかった。

【お手本のある難しさ…5】

・似た内容があつて難しかった。お手本の超訳があつたから違うもの考えるのが少し大変だった。

・一つ一つの語句の意味をマスタ―してこそその超訳であった。自分たちは超訳の訳をしてしまいがちだった。

・正解例を見ずに直訳を見た上で挑戦したほうが、例にひきずられずにできたと思う。

・自分の言葉にしようとしても、超訳を読んでもうとそちらに寄つてしまふ。

・お手本があるとそれに沿つてしまふ。

【超訳する面白さ、楽しさ…12】

・意味を踏まえつつわかりやすくするのに、むずかしおもしろかった！

・深く読めば読むほど分からなかったが、面白かった。

・思つていた以上に面白かった。・面白かった。

・楽しかった。・楽しかった。・楽しかった。

・やれば楽しい。

・覚える時に覚えやすいと思つたし、意味を知つて超訳することで自然と覚えていたので良かった。楽しかったです。

・難しかったが、普通の訳より意味がわかりやすかった。

・最初は難しかったが、やつていくうちに慣れてきた。

【みんなで取り組む楽しさ…6】

・一人ひとりで個性が出ていて面白いと思つた。

・一人それぞれ訳し方が異なつていておもしろい。

・難しかったけれどみんなの訳が面白かった。

・表現力に優れている人は面白いものができる。

・みんな途中ずれていた気がしたが楽しかった。

・みんなで話し合つてやることで理解が深まった。

【その他…1】

・昔の人も恋に盲目で、感情豊かだったんだと思つた。

4、「超訳」は教育上好ましくない」という意見があるそうです。それに対するあなたの考えを書いてください。

【超訳は）良い…16】

・好ましくないとは思わなかった。親しみやすくていいと思つた。・自分はそうは思わない。

・節度を守つて言葉を使うと覚えやすくて面白い学習になる

と思う。・親しみやすさが生まれた。

・超訳したほうが意味がわかるし、覚えやすくなるのでいいと思う！・興味がわく子もいると思ういいと思う。

・(2)5にもあるように知らない言葉が使われていると読みたくなるからあるほうがいい。

・今の子ども達は若者言葉を使うと言われているので、こんな訳があっても別に良いのでは。これで興味を持ってくれたらいいのではと思う。・現代っ子にはいいと思う。

・今の子どもたちにとっては超訳にするほうが親しみやすくなるのでは？

・和歌に限らず、文章、例えば小説やあるいはマンガまで感じ取り方や表現方法は人それぞれあるため、むしろ、様々な視点を使えて良いと思う。

・教育に良いものだと考える。一つのものに対して自由な考えができるので想像力を育むことができる。

・自分なりに覚えることができるからいいのではないかな。

・覚えられるし良いと思う。

・別にいいと思う。自分たちで超訳することで内容を覚えることができると思う。

・個々の感受性を磨く良いものだと思う。

【良い点もあり…10】

・理解する上ではあり。・好みなのではないかと思う。

・意味を覚える上ではとても良いと思う。

・理解する上では一つの手段なので悪いと思わない。

・親しみを持たせるというのでは良いと思う。

・触れにくいものの、敬遠しがちなものを親しみやすくする点では良いと思う。

・超訳したほうが何を言いたいのかわかりやすい部分もある。

・覚えやすければ私は使っても構わないと思う。

・別にそのほうが分かりやすいなら、取り入れてもいいと思う。原文の良さがなくなったり、言葉遣いが悪くなってしまうなら、それに気をつけて(ルールなどをつくる)やればよい。めんどーならやらない。

・対象年齢によると思う。高校生以上くらいなら、そんなに影響せず、理解しやすいと思う。

【悪い部分もある(条件付きで良し)…5】

・身近に感じられ良いと思う。しかし内容をしっかりとらえなければいけないと思う。

・百人一首に「触れる」という点では良いと思う。しかし深く「学ぶ」のならば、超訳だけでは足りないと思う。

・超訳だけ教えるのではなく、紹介程度なら親しみやすく良いと思う。・もとの意味とかけ離れなければよいと思う

・小学生にはハレンチかもしれない。

【良くない…4】

・深い意味があるのに、超訳するとその意味が伝わらなくなると思う。

・最終的に歌とは関係の薄い訳になっていったような気がするのでもっと歌の意にそった訳にすれば分かりやすくいいと思う。

・どの語句が何という意味を持つのか、きちんと覚えるべきだと思った。

・昔の文はその良さがあるので、超訳することでその良さがなくなってしまうのかもしれない。

《考察》

授業前から「超訳」という言葉を聞いたことのある学生は、43名中14名であり、意味も知っていた学生は、たったの2名であった。「超訳」がタイトルにつく書籍を、学生たちは目にしてこなかったということがわかる。これも若者の本離れの表れであろうか。授業を受けた後は、学生の多くが「超訳」の意味を知り、そのわかりやすさや面白さを「発見」した驚きや喜びを表現している。

しかし、15回目の授業においても、「超訳」の意味がわからないと答えた学生が4名いる。「超訳」の意味について、教員や友人に尋ねることもなく15回目の授業を迎えたということは、授業に対する意欲や関心がほとんど欠如しているのだと推測できる。彼らの意欲・関心を喚起できなかったのは、授業における反省点の一つである。

『うた恋い。』の「超訳」を読んでみた印象の中には、否定的なものは一つもなかった。

「超訳」に挑戦したことについては、「難しい」という感想が最も多かった。しかし、「難しいことに挑戦し、自分なりに頑張った」という思いの含まれたものもあるという印象を受けた。また、「面白い」「楽しい」という感想も多く、「仲間と取り組む楽しさ」を挙げる学生もいた。「超訳」は、今重視される「アクティブ・ラーニング」という側面からも、古典に親しむための有効な学習方法だと思われる。

ところで、「お手本のある難しさ」を指摘する声のあったことは、今後の課題にしたい。確かに、『うた恋い。』の「超訳」に引っぱり張られ、ほぼ重なるような訳しかできない学生も存在したからである。しかし、グループで話し合いながら「超訳」を工夫し、よりよいものを考え出そうという姿が見られたという点も述べておく。

また、『超訳』は教育上好ましくない^{〔注12〕}という意見に対しては、その意見を否定し「超訳」を良いものだとする学生が最も多かった。ただし、「超訳」の好ましくない点を指摘する学生も存在した。「深い意味を考えなくなる」「(古語の)良さが失われる」「百人一首に『触れる』には良いが、『学ぶ』には不十分である」というものなどである。もちろん、大学受験を見据えた場合など、授業の目的によっては「超訳」だけでは足りない面もあるだろう。しかし、百人一首への関心を高めたり、百人一首を楽しんだりするためには「超訳」は非常に有効であり、古典学習の導入としても十分に活用で

きるに違いない。

7. おわりに

男性アイドルユニットの「嵐」が平成27年10月にリリースしたアルバム『Japonism (ジャポニズム)』の中に、大野智のソロ曲「暁」が収録されている。その歌詞の中には、小倉百人一首の68番目の歌「心にも あらでうき世に ながらへば 恋しかるべき 夜半の月かな」が含まれているという。また、平成29年4月に公開予定の人気アニメ映画・劇場版『名探偵コナン』第21作のタイトルは「から紅の恋歌（からくれないのラブレター）」で、百人一首がストーリーのキーワードになり、劇中にいくつかの百人一首の歌が登場するらしい。小倉百人一首は、知識層だけのものではない。エンターテインメントの世界でも当たり前のように登場する。つまり、日本人の文化的バックボーンなのである。

小倉百人一首の世界を、若者たちが自分たちの血の通った言葉で感覚的に理解しようとする試み（あるいは若者たちに理解してもらおうという試み）が、授業における「超訳」の意味であった。「超訳」で百人一首に対する親近感が増した学生たちは、第14回目の授業で、小倉百人一首のかるた取りに興じ、大いに盛り上がった。この授業を実施できるのも残り数年であるが、試行錯誤しながら、学生たちとともに、百

人一首の世界を楽しんでいきたい。

最後にかかるた遊びに関する学生たちの感想を一部紹介する。

1、授業で実施した小倉百人一首大会（かるた遊び）についての感想を書いてください。

- ・楽しかった。スマホのゲームばっかやってたから新鮮だった。
- ・楽しかった！久しぶりに熱くなった。
- ・楽しかった。自分の好きな句がきちんと取れて良かった。
- ・みんなで遊ぶことができて楽しかった。自分が覚えたものが上の句だけ読まれているうちに取れると面白かった。
- ・古くからある遊び（大会等あり、競技感もあるが）で、みんなが楽しく取り組んでいるのを見てスゴいと思った。
- ・上の句がきたら下の句はこれというのを覚えていればすぐ取れるが、下の句が似たようなものもあったので全文を覚えていたら確実に取れると思った。自分の記憶の中では初めてやったので楽しかった。
- ・決まり字をもっと覚えてやったら気持ちよさそうと思った。

注

〔1〕平成29年度入学生から採用される新カリキュラムでは、無くなる授業である。ただし、平成28年度入学生までのカリキュラムでは4年次後期に配置されるため、平成31年度までは存在する。

〔2〕静岡大学出身の杉田圭によるコミック。渡部泰明（東京大学大学院人文社会科学系研究科教授）が監修を務める。

- [3] 『SAKURA MOOK38 歴史考察シリーズ』の『超訳と写真で旅する百人一首』による。[2]の杉田圭、渡部泰明がこの書籍の制作に協力している。
- [4] 『超訳百人一首 うた恋い』公式サイト <http://utakoi.jp/> による。最新の検索日は平成29年1月28日。平成28年4月の検索時にも「シリーズ累計87部!!」の文言が確認できた。
- [5] 末次出紀によるコミック。平成20年2月より講談社『Be・LOVE』に掲載中。アニメにもなり、日本テレビ系列で放映された。
- [6] [3]に同じ。
- [7] 金井元貴(新刊P編集部)による平成22年3月4日配信の「直訳でも意訳でもない。超訳ーその意味とは?」。
- [8] 全12巻からなる物理数学のバイブルのひとつ。著者はロシアの数学者ウラジミール・イワノビッチ・スミルノフ。翻訳監修は彌永昌吉、菅原正夫、三村征雄、河田敬義、福原満洲雄、吉田耕作。
- [9] 平成28年4月16日にアカデミー出版のホームページの問い合わせ先にメールし、平成28年4月19日に社長室の社員より回答を得た。
- [10] 高校古文の補助教材にも使われる。小倉百人一首を1首ごとに1〜2頁ずつで解説し、鑑賞、歌意、作者、語句・語法、表現の項目と品詞分解した歌が載る。カラー写真も豊富。
- [11] 『うた恋い』。各巻の末尾に杉田圭による全100首の「超訳」が載せられている。
- [12] [3]に同じ。『超訳』は教育好ましくないのでは? という声の存在することが記されている。

引用文献・参考文献

- 阿部光平・伊藤英理子 (二〇一五) 『超訳と写真で旅する百人一首』笠倉出版
- 北原保雄 (二〇一〇) 『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 新村出 (二〇〇八) 『広辞苑 第六版』岩波書店

杉田圭 (二〇一〇〜二〇一三) 『超訳百人一首 うた恋い。1〜4』メディアファクトリー

鈴木日出男・山口慎一・依田泰一 (一九九七) 『原色小倉百人一首』文英堂

山田忠雄・柴田武ほか (二〇一二) 『新明解国語辞典 第七版』三省堂

吉海直人 (二〇一三) 『マンガで覚える図解 百人一首の基本』土屋書店

渡部泰明 (二〇一四) 『絵でよむ百人一首』朝日出版社

『アカデミー 出版』ホームページ <http://www.ea-go.com>

アニメ『ちはやふる』公式サイト <http://www.nrv.co.jp/chihayafuru/>

映画『ちはやふる』公式サイト <http://www.chihayafuru-movie.com/>

コミック『ちはやふる』公式サイト <http://be-love.jp/chihaya/>

新刊Pニュース <http://www.sinkan.jp/news/>

『超訳百人一首 うた恋い』公式サイト <http://utakoi.jp/>

『ブリタニカ国際大百科事典 小項目電子辞書版』(二一〇三)ブリタニカ・ジャパン

付記 本稿は平成28年5月28日の全国大学国語教育学会(第130回新潟大会)にて口頭発表した内容を加筆修正したものである。

(かこ・ゆうこ) 至学館大学助教

本学大学院一九九〇年修了 元非常勤講師)